


*日：5月14日（金）（雨天の場合は21日（金）へ延期）

*集合：9時40分 西武池袋線 西所沢駅

所沢の民話

所沢の民話や伝説が最初に市民に紹介されたのは、旧『所沢市史』（昭和32年刊）です。これには「秋津曼荼羅淵の河童」「桜淵の地藏尊」「勘七の猫塚」「弘法の三ッ井戸」の四点が所収されました。ついで、『ふるさと所沢』（昭和44年初版）では、「とんぼの宿り木」「福猫塚」「鼠薬師」「車返しの弥陀」「行脚の弥陀」「あっちいちいの新光寺」「滝の城の竜」の七点が付加されました。これら以外にも、聞き取り調査で坂ノ下村から採集されたという「東光寺の金毘羅様」「塚ノ越地藏尊」などの話があります。

『弘法の三ッ井戸』（西所沢）

（近くに西友）

昔、一人の旅僧が所沢に回ってきました。そして、とある一軒の家に立ち寄り、「のどがかわいてたいへん困っているのでどうか水を一杯ください」と頼みました。すると機織りをしていた女の人は「それはお困りでしょう。冷たい水をくんでくれますから少し待っていてください」と、気持ちよく出て出かけたがなかなか帰ってきません。長いこと待っているとようやく帰ってきて、「どうもお待たせしました。さあどうぞたくさんおあがりください」と水を差し出しました。旅僧はいかにもうまそうに飲んで、茶碗を返しながら「ずいぶん暇がかりましたがどうしたわけですか」と尋ねると「ここは水が不便で井戸が遠くの方にあるので水汲みに大変時間がかかります」と答えました。そこで旅僧は、その水利の不便なのを哀れに思い、持っていた杖で、浅くとも良い水が出る井戸の位置を三ヶ所指し示してどこともなく立ち去りました。そこで、土地の人たちが力をあわせ、その教えられた場所に井戸を掘ったところ、二メートル足らずで水が出てきて、どんなに日照りが続きほかの井戸の水がかれてもこの井戸の水はかれることはありませんでした。後になってこの旅僧は弘法大師であったことがわかり、人々はその恩を忘れないように井戸の近くにほこらをつくり、弘法大師を祭りました。



弘法の三ッ井戸

そして、毎年八月二十日、二十一日にはにぎやかにお祭りが行われます。

『あっちいちいの新光寺』（宮本町・新光寺）

*八角堂も貴重な建造物 *暗渠（境内の下が東川）

昔、河原宿の新光寺の庫裏に、毎晩のように遊びに来る狸がいました。この狸は話が好きで囲炉裏であたりながら、和尚さんと世間話をして、いつもなかなか帰らないので、和尚さんは大変迷惑に思っていました。ある晩のこと、狸の方はいっこうにおかまいなしです。ある晩のこと、狸はまたまた長話をしていましたが疲れたものか、とうとう居眠りを始めました。狸寝入りでもなさそうです。ついに我慢しきれなくなった和尚さんは、囲炉裏の中の焼き石を、狸の股に放り込みました。いい気持ちで眠っていた狸は、びっくりして飛び上がり、その石をくるんで外へ飛び出しました。そして、「あっちいちいの新光寺、二度と来まい新光寺」と言いながら逃げ、その後は、二度と姿を見せなかったと言うことです。



新光寺

所澤神明社（宮本町）



所澤神明社は所沢の産土の神であり「所澤総鎮守」です。
家内安全 商売繁盛 厄除け
渡航安全に役立ててください。



◀ ケヤキ巨樹 所沢市第1号指定

(*三ヶ島葎子歌碑等見学)

『鼠薬師』（有楽町・薬王寺）



新田義貞の子義宗は、元弘の戦いの後、たびたび足利氏と戦いましたが、いつの戦いでも味方の不利となり頼みにする将士も、次々討ち死にして足利氏の勢いが加わるのに引きかえ、味方はだんだん少なくなってきます。さすがの義宗も、これではどうにもしょうがないので、「しばらく隠れて、再起の時を待つよりほか仕方が無い」と考えました。そこで、主な家臣たちに言い含めて軍勢を上州に引き返らせ、それから、「義宗は北国に落ちて行った」と世の中に言いふらせて、自分はひそかに所沢に隠れ住みました。ところがその後、足利の勢いは日増しに強くなり、ついに南北朝も統一され、戦乱も治まったとの話が伝わってきました。そこで、義宗は「こうなるとは、長い間の念願をかなえることはとてもできない」と考え、髪を落として衣を着て、今までの隠れ家をお堂に改めました。そして義宗は「自分は手柄を立てることはできずに亡くなっても、後世になって一族子孫の中から、自分の念願を果たしてくれる者が出るように」と祈るとともに、戦死した一族や部下の菩提を弔いながら日を送っていました。

そして遂に、応永二十年（1413年）、この地で亡くなりました。するとその後、武蔵野の中に鼠が数限りなく出て暴れ、農家で蓄えておく穀物や種もみなどを食い荒らしたり、また田畑に栽培してあるものを何でもかんでも食い荒らし回りました。その被害はものすごく農家は勿論、どこの家でも大変困ってしまいました。そのうちだれ言うともなく、「これはきっと、志を果たすことができないで戦死した新田氏の一族やその家臣たちの怨霊に違いない」と伝え広められ、人々の恐れようは非常なものでした。そこで、いろいろ



と考えた末、「薬王寺のご本尊である薬師如来は、新田氏の大將義宗公の守り本尊だからこれにお願いすれば何とかなるだろう」とお祈りをしました。ところが不思議なことにお祈りをしたその人達の家は少しも鼠の被害を受けなくなりました。そうするとこの話が広まり、人々はこの薬師如来を「鼠薬師」と呼んで各地からたくさんの参詣人がきました。そして、お参りした人達はみな鼠の被害を免れ、安心して生業に励むことができたということです。